



住江織物株式会社

# 2011年5月期 決算概況

住江織物株式会社は  
日本のインテリアのパイオニアメーカーとして

健康 環境 リサイクル アメニティ  
**KKR+A**

健康・環境・リサイクル+快適な  
居住空間を創造します



1	表紙
2	目次
3	2011年5月期(10/6~11/5)連結業績
5	連結業績の事業セグメント別内訳
6	インテリア事業
7	自動車・車両内装事業
9	機能資材事業
10	連結B/S 連結C/F
11	連結業績の推移
12	2012年5月期計画
14	株主配当について
15	リサイクルタイルカーペット「ECOS(エコス)」新発売
19	難燃性樹脂ハニカム構造体「スミハニカム」を共同開発
23	香港「サウスチャイナモーニングポスト」にインタビュー記事掲載

## ●Profit and loss statement

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比		期初計画	期初計画比	
			(%)	(増減額)		(%)	(増減額)
売上高	70,891	70,033	1.2%	858	74,000	△4.2%	△3,108
営業利益	1,184	1,806	△34.4%	△622	1,850	△36%	△665
営業利益率	1.7%	2.6%			2.5%		
経常利益	1,594	2,191	△27.3%	△597	2,150	△25.9%	△555
経常利益率	2.3%	3.1%			2.9%		
当期純利益	662	1,412	△53.1%	△750	1,350	△50.9%	△687
当期純利益率	0.9%	2.0%			1.8%		

連結売上高は**708**億91百万円

(前期比8億58百万円増、期初計画比31億8百万円減)

連結営業利益は**11**億84百万円

(前期比6億22百万円減、期初計画比6億65百万円減)

## ■連結売上高および営業利益

第3四半期までは政府の経済政策によって緩やかな景気回復が続いていたものの、3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な人的、物的被害に見舞われ、また、製造業におけるサプライチェーンの分断によって生産の停止が連鎖し、企業業績や雇用環境の悪化など、深刻な影響を受けた。

インテリア市場、ならびに自動車内装材市場もその影響が大きく、当社も、震災によって第4四半期の売上高と収益が急激に悪化し、連結売上高は前期を上回ったものの、営業利益は減益となった。

## ■連結経常利益

持分法による投資利益を97百万円計上したものの、営業利益の減益が影響し、経常利益は前期比5億97百万円減の15億94百万円となった。

## ■連結当期純利益

東日本大震災に伴う損失が1億35百万円発生したこと等により、当期純利益は前期比7億50百万円減の6億62百万円となった。

# 連結業績の事業セグメント別内訳 (単位:百万円)

5

## ●Segment information

	当期	前期	前期比(%)	前期比(額)	
連結売上高	インテリア	32,617	32,760	△0.4%	△143
	自動車・車両内装	35,037	33,567	4.4%	1,470
	機能資材	3,084	3,538	△12.8%	△454
	その他	153	167	△8.4%	△14
	セグメント合計	70,891	70,033	1.2%	858

	当期	前期	前期比(%)	前期比(額)	
営業利益	インテリア	578	936	△38.2%	△358
	自動車・車両内装	1,749	1,963	△10.9%	△213
	機能資材	△43	17	-	△61
	その他	50	97	△48.3%	△46
	調整額	△1,149	△1,207	-	57
	セグメント合計	1,184	1,806	△34.4%	△622

※当期よりセグメント区分を変更しております。

コア商品であるカーペットを中心にカーテン、壁紙等を販売

連結売上高 **326**億17百万円

(前期 327億60百万円)

連結営業利益 **5**億78百万円

(前期 9億36百万円)



大阪新阪急ホテル 宴会場  
別注カーペット

■前期比1億43百万円減収、3億58百万円減益

(オフィスビルや商業施設、ホテル向けの業務用カーペット)

東日本大震災の影響でリニューアル工事の中止や新築工事の延期が発生し、前期売上高を下回った。

(一般家庭向けカーペット、ラグマット)

個人消費の低迷に拍車が掛かり、前期売上高を下回った。

(カーテン)

主力の「mode S(モードエス)VOL.5」と既製カーテンの新シリーズ「デザインライフ」が順調に売上高を伸ばし、コントラクトカーテン「Face Vol.16+(プラス)」が医療・福祉・教育施設で引き続き受注を増やした結果、売上高は前期をわずかに上回った。

(壁紙)

「空気を洗う壁紙®」などの機能性商品が売上高を伸ばしたが、全体的には前期をわずかに下回った。

フロアカーペット、シート表皮材、天井表皮材等、自動車内装材をトータルで販売

車両内装分野を合わせた連結業績

連結売上高 **350** 億37百万円

(前期 335億67百万円)

連結営業利益 **17** 億49百万円

(前期 19億63万円)

■前期比14億70百万円増収、2億13百万円減益

(国内)

エコカー補助金制度の終了や、東日本大震災の影響による自動車生産の停止に伴い、当社の自動車向けカーペット事業とシート表皮材事業のスミノエ テイジン テクノ株式会社は、売上高、営業利益ともに計画を下回った。

(海外)

米国子会社STAの売上高と営業利益が前期を上回り、連結業績に寄与したものの、中国子会社SPMは売上高、営業利益ともに前期を下回った。



トヨタ プリウスα  
スエード調シート表皮材

**鉄道・バスにシート表皮材やカーペット、  
リサイクル性に優れたシートクッション材「スミキューブ®」等を販売**

九州新幹線の内装材受注等により、新車向けの受注は前期を上回ったものの、鉄道各社の安全対策投資の拡大や東日本大震災の影響によってリニューアル受注が冷え込んだため、全体では売上高、営業利益ともに前期を下回った。



山陽・九州直通新幹線  
「みずほ」「さくら」



東北新幹線  
E5系「はやぶさ」



ホットカーペット事業、タイルカーペット輸出事業と  
独自消臭加工技術によるフィルター事業を展開

連結売上高 **30** 億84百万円

(前期 35億38百万円)

連結営業損失43百万円

(前期 17百万円)

### ■前期比4億54百万円減収

ホットカーペット事業は、暖冬の影響により生産台数が減少し、円高と価格競争の激化から売上高、営業利益ともに減少した。タイルカーペットのOEM事業は、国内市場では売上高がわずかに増加したが、輸出では微減となったため、全体では前期並みとなった。消臭フィルター事業では、「香りでごまかさない 本当の消臭」が順調に売上高を伸長し、家電用フィルター生産も拡大した。



Tispaシリーズ 脱臭・消臭剤  
「香りでごまかさない 本当の消臭」

Balance sheet	当期	前期
<b>総資産</b>	<b>72,877</b>	74,383
現預金	8,247	8,284
売上債権	17,260	18,676
たな卸資産	10,587	10,071
その他の流動資産	3,314	3,795
有・無形固定資産	26,636	25,590
投資その他の資産	6,831	7,965
<b>総負債</b>	<b>44,776</b>	46,134
仕入債務	14,335	15,334
短期借入金および一年以内償還社債	12,567	11,496
その他流動負債	3,675	3,521
長期借入金・社債	3,478	5,157
その他固定負債	10,719	10,624
<b>純資産</b>	<b>28,101</b>	28,249
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,652	2,652
利益剰余金	6,898	6,614
自己株式	△329	△325
有価証券評価差額金	△81	496
土地再評価差額金	7,185	7,184
その他評価・換算差額	△620	△292
少数株主持分	2,844	2,365

【たな卸資産】

当期より連結子会社となったタイのT.C.H.Suminoe Co., Ltd.と、中国の蘇州住江小出汽車用品有限公司のたな卸資産2億8千万円が増加したことなどから、前期比5億16百万円増の105億87百万円となった。

【有形・無形固定資産】

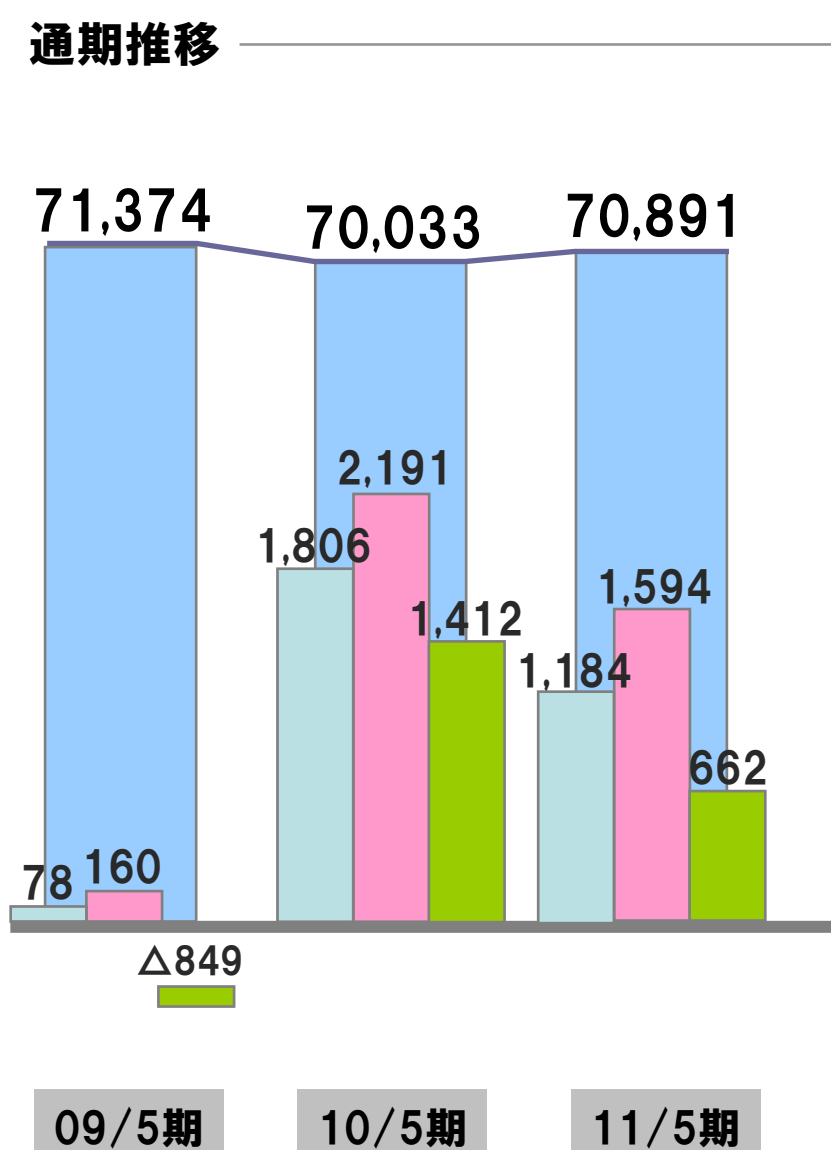
連結子会社化した2社の固定資産が増加したほか、リサイクルタイヤカーペットの新ライン導入などの設備投資を行ったため、前期比10億45百万円増の105億87百万円となった。

【キャッシュ・フロー】

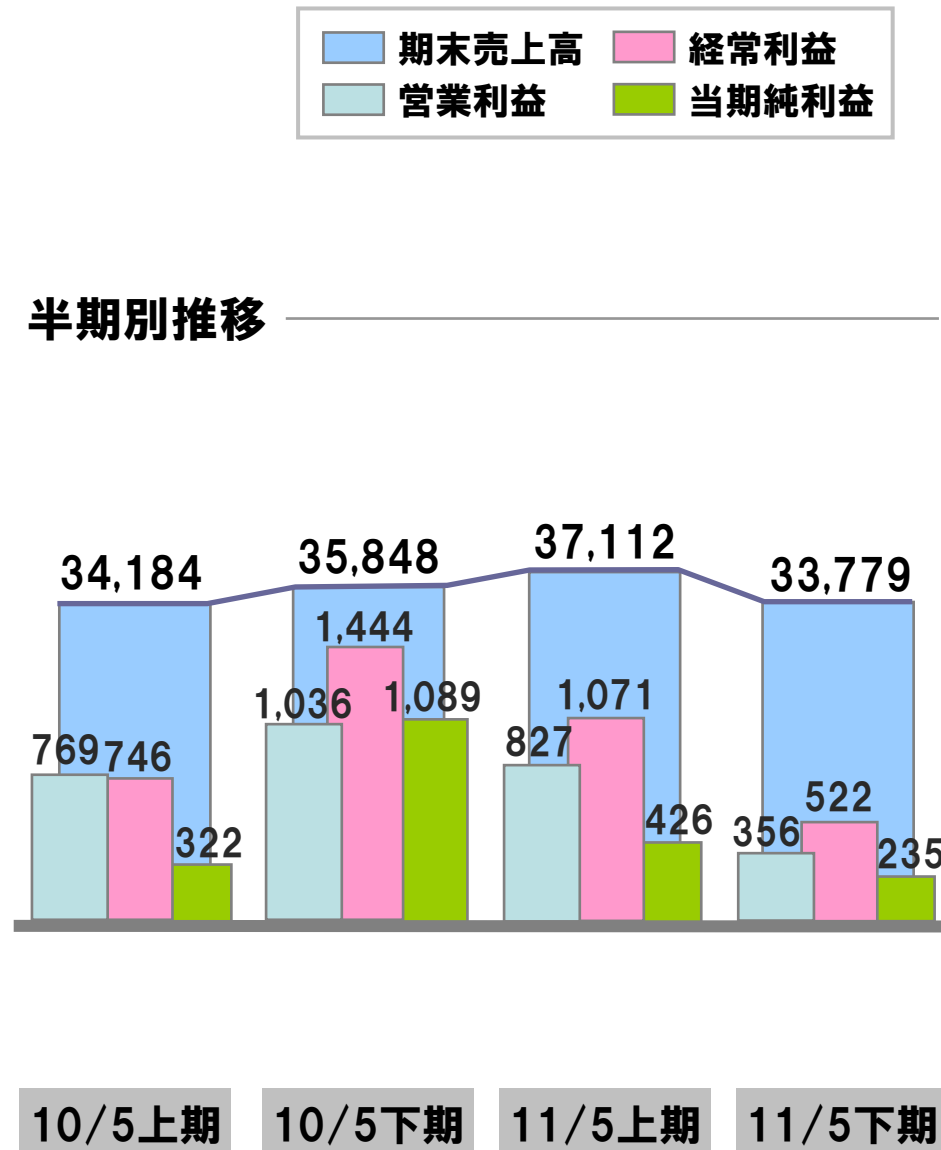
営業キャッシュフローを24億79百万円計上したものの、固定資産の取得8億47百万円や社債の償還による支出13億円等があったため、期末現金残高は前期比7億37百万円減の78億27百万円となった。

Statement of cash flows	当期	前期
営業活動によるC/F	2,479	2,547
投資活動によるC/F	△1,044	△745
財務活動によるC/F	△2,105	240
換算レート変動の影響	△67	△6
期中の増減額	△737	2,035
期首の現金残高	8,564	6,529
期末の現金残高	7,827	8,564

通期推移



半期別推移



連結期初計画

売上高 **740** 億円

営業利益 **13** 億円

経常利益 **16** 億円

当期純利益 **8.5** 億円

	2012年5月期 計画	前期	前期比 (%)	前期比 (額)	
売上高	インテリア	32,200	32,617	-1.3%	△417
	自動車・車両内装	37,700	35,037	7.6%	2,663
	機能資材	4,000	3,084	29.7%	916
	その他	100	153	△34.6%	△53
	セグメント合計	74,000	70,891	4.4%	3,109

	2012年5月期 計画	前期	前期比 (%)	前期比 (額)	
営業利益	インテリア	530	578	△8.3%	△48
	自動車・車両内装	1,820	1,749	4.1%	71
	機能資材	80	△43	△286.0%	123
	その他	30	50	△40.0%	△20
	調整額	△1,160	△1,149	—	△11
	セグメント合計	1,300	1,184	9.8%	116

■2012年5月期計画

東日本大震災によるサプライチェーンの分断から立ち直りつつあるものの、電力不足も影響し、製造業を中心にいまだ完全な復興には至っておらず、加えてギリシャ財政危機といった欧州の経済不安や米国の景気停滞など、先行きは非常に不透明かつリスクを含んだ状況にある。

2012年5月期の前半も各セグメントともに同震災の影響を免れない状況となっている。

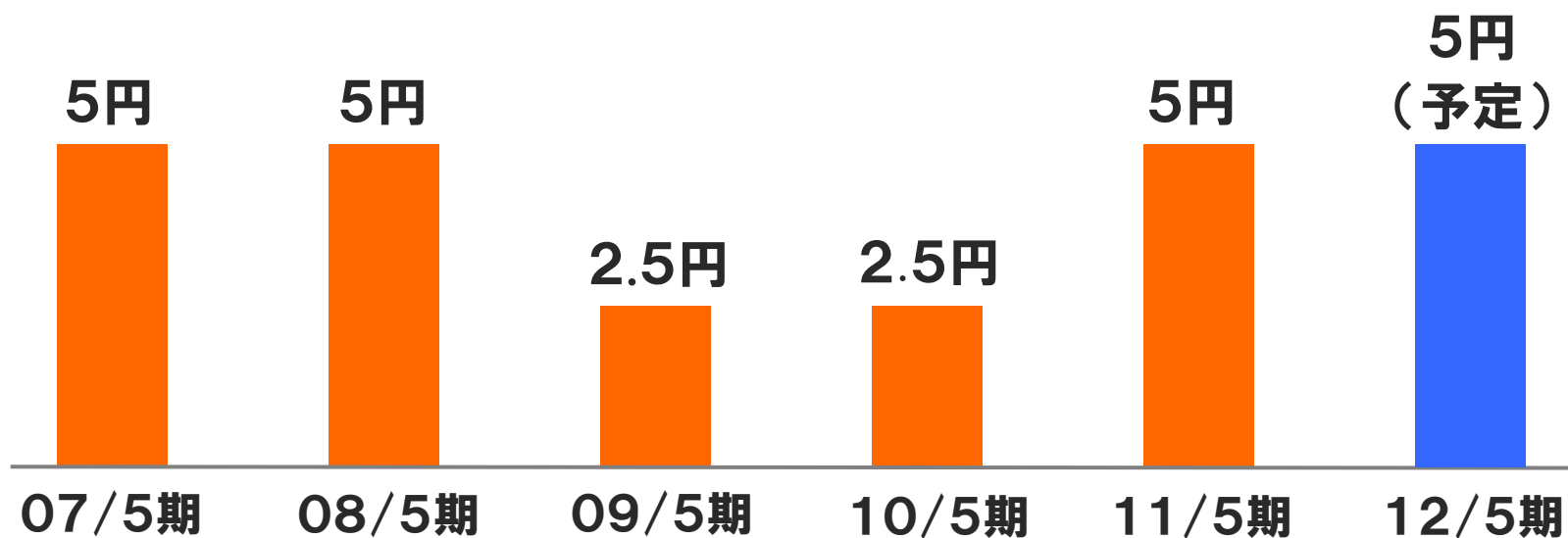
■中期経営計画について

2010年6月より3ヵ年中期経営計画“Challenge 2012”をスタートさせたが、その前提となる市場環境が大きく変化していることから当計画を中断し、2013年5月期を初年度とする3ヵ年計画を改めて策定し、発表する。

## ■2012年5月期について

2012年5月期は、中間、期末ともに2円50銭、年間5円の配当を予定しております。

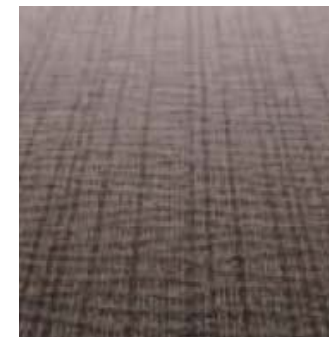
## ■配当額の推移



## 循環型リサイクルタイルカーペット「<sup>エコス</sup>ECOS」発売

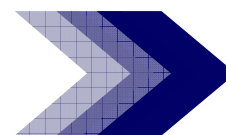


市場から回収した使用済みタイルカーペットを再生材料として使用した、新しい循環型リサイクルタイルカーペット「<sup>エコス</sup>ECOS」を7月15日に新発売しました。



## 「<sup>エ</sup>ECOS<sup>ス</sup>」 開発の背景

持続的な社会を構築するため、環境負荷の少ないものづくりが求められている。



低炭素社会の  
実現へ

当社では、ペットボトルリサイクル繊維「スミトン<sup>®</sup>」の製造を20年前から開始し、リサイクルタイルカーペットの製造に取り組んできました。

タイルカーペットの資源循環に向け、新たな取組みとして、

住江織物

スミノエ

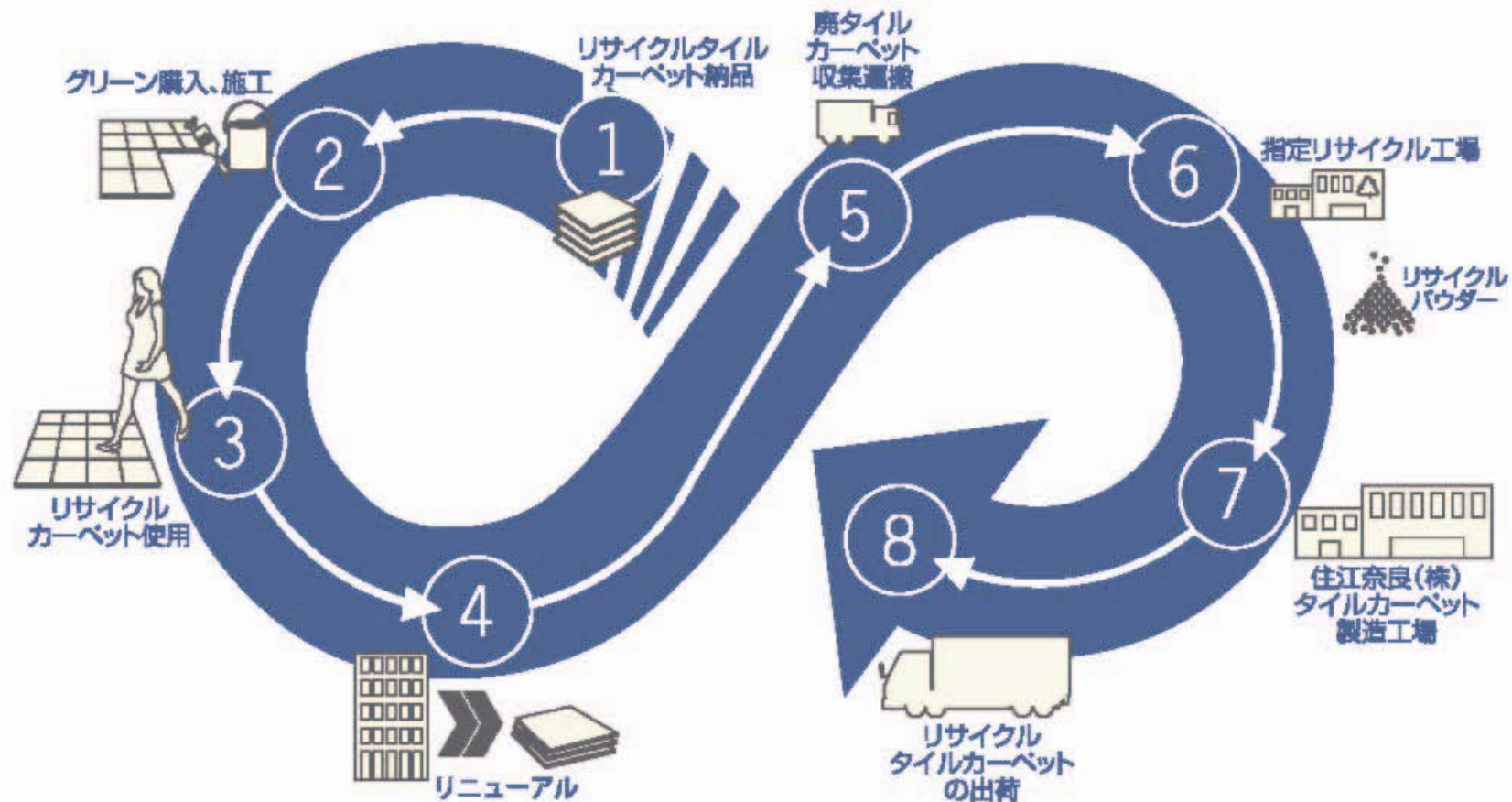
住友商事

リファインバース

4社共同でタイルカーペットの回収、再資源化、製品化までの独自の循環モデルを確立

## 「<sup>エ</sup>CO<sup>ス</sup>S」 循環の仕組み

ECOSは「資源を未来へ」をキーワードに、エコバリューチェーンを確立した画期的なリサイクルタイルカーペットです。



## ▶▶ 高い再生材比率

市場に流通している製品は、ポストコンシューマ再生材比率が25～40%強のものがほとんどだが、ECOSは**最大で77%**を達成。

※ポストコンシューマ再生材・・・市場から回収した廃材をもとにした再生材料

## ▶▶ 高い安全性、品質

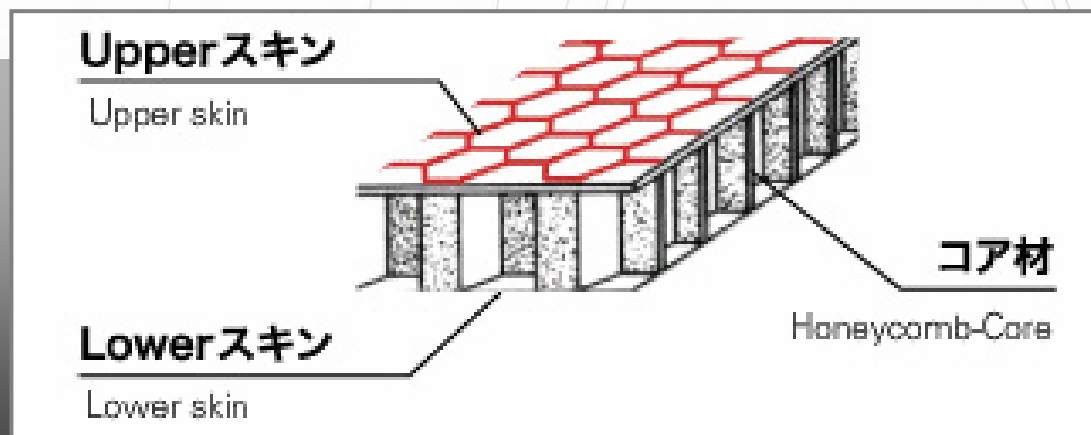
再生材の中には、材料由来を特定出来ないものも多くあるなか、ECOSは再生材を使用済みタイルカーペットに限定することで、材料由来を明確にし、安全性を確保。

## ▶▶ 高いCO2削減率

**最大43%**のCO2削減率(当社従来品比)を達成。

(みずほ情報総研株式会社によるLCA評価にて)

鉄道車両材料の開発で培った難燃化技術と岐阜プラスチック工業の超軽量・高剛性樹脂ハニカム構造体を融合し、難燃性ハニカム構造体(商品名 スミハニカム)を共同開発しました。

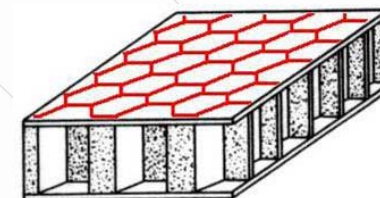


高強度・超軽量構造

PPを中心とした素材

2次加工に優れた素材

表面に異素材を  
接着可能



六角形のセルの集合体は、力学上最も優れたサンドイッチコア材



[Core:PP, Skin:石目調シート]  
Marble pattern sheet



[曲げ加工]  
Bending forming



[プレス加工]  
Pressing forming

## 住江織物の 難燃化技術

自動車・車両の内装材の開発で培った住江織物の独自難燃化技術を応用し、ハニカム材のスキン層、コア材のPP樹脂を難燃化。

## 鉄道車両用材料燃焼試験の「難燃性」に合格

※(社)日本鉄道車両機械技術協会による燃焼試験

👉 PP樹脂の難燃化と燃焼規格合格によって  
自動車・バス・鉄道・航空機などへの用途展開が  
広がる

両社が持つ独自技術と販売ルートを活用し、「難燃性」を要求される  
様々な市場へ展開していく。

住江織物

岐阜プラスチック工業



South China Morning Post Friday, June 24, 2011 S7  
Sponsored section in co-operation with Discovery Reports  
**SPECIAL REPORT**



Ichizo Yoshikawa, president

## Rooting success on environmental accountability

**E**nvironmental accountability was not a focus for most companies up until the past 20 years, when adverse effects started threatening the sustainability of many industries.

Possessing the foresight to advocate green solutions, Sumitomo Textile leveraged its technological expertise to produce environmentally friendly products as early as the 1990s, decades before other companies followed suit.

Sumitomo started as a carpet manufacturer in 1883 and later expanded its product portfolio to include car seats, cushions and seat covers for public transport vehicles. It also manufactures textiles for interiors such as floors, fabrics and vinyl wall coverings.

Sumitomo is the only company in Japan to provide all kinds of fabrics to the vehicle industry, from seats to carpets and car mats.

Guided by its "KKR+A" philosophy (K for *kenko* which means health, K for *kyōyō* which means environment, R for

recycling, and A for amenity), Sumitomo employs a more environmentally friendly production cycle. The company has leveraged its industry know-how to streamline its processes, promoting recycling and reducing carbon dioxide emissions.

The production process of one of Sumitomo's revolutionary products, the Eco Mark-certified SG-300 recycled carpet tile for interiors such as floors, emits 19 per cent less CO<sub>2</sub>. It also uses a special polyester fibre named SUMITRON, exclusive only to Sumitomo, which is made from recycled PET bottles.

Sumitomo's innovative business approach has earned the trust of major Japanese car manufacturers such as Toyota and Nissan. Aside from the vehicle segment, Sumitomo also caters to hotels and theatres for their carpet needs.

"Even before our customer requests for a particular design, we already do some research and try to understand their needs," says Ichizo Yoshikawa,

Sumitomo Textile president. "Because of this, many companies trust us. There are three factors that enabled us to earn client trust: we never betray the customers, we provide good quality and we give proper costing."

With subsidiaries in Thailand, the mainland and the United States, Sumitomo is ready to fulfil its vision of becoming the most successful automotive supplier in the world.

Sumitomo seeks to increase its international customer base in the automotive segment and is confident of the capabilities of its subsidiaries to meet imminent demand. The company is looking to expand its railway division internationally as well.

"We will aggressively market our eco-friendly products to international markets. Sumitomo has invested time and money to manufacture products with such quality and we believe that it will meet the requirements of even the most meticulous international clients," Yoshikawa says.

- 香港の「サウスチャイナモーニングポスト」の日本企業特集で、インタビュー記事が掲載されました。
- 環境にやさしい商品作りについて、当社の取り組みが取り上げられました。

## 「サウスチャイナモーニングポスト」

1903年に創刊され、アジア、オセアニア圏に2千万人の読者を持つ、香港の伝統ある日刊英字新聞です。